

長岡国道事務所

調査日：平成 16 年 11 月 7 日（日）

班：道路ネットワーク班

分類別：復旧・復興状況

キーワード別：一般道路、交通ネットワーク、輸送

調査結果

(1)震災直後の状況（初動体制・情報収集等）

- ・大きい震度の時は非常体制レベルとなり、職員は自動収集される仕組みである。初動時のみマニュアルは存在するが、マニュアル通りには進まなかった。年 1 度の防災の日に職員が内容を確認する。
- ・震度 4 以上で必ずパトロールを実施する。維持管理業者との協力体制は得られていて、4 出張所ごとに 1 つの業者と年間契約している。職員だけでなく彼らも被害状況の初期把握に協力し、概ね 3 時間後には被害状況が掴んでいた。

(2)応急修復の実施状況

- ・大きな工事や地整と調整しながらやっているが、最終決定は事務所が行う。
- ・工事は道路管理者の判断で行い、供用前に警察協議を行って運用を決める。
- ・11/7 現在で、車道は概ね応急修復が完了しているが、歩道はほとんど手を付けていない。

(3)交通規制・管理の実施状況

- ・通過交通対応は警察と相談しながらやっている。
- ・片側交互通行区間の制御については、警察と国交省が協力して 1 時間単位で渋滞長の情報をやりとりした。川口町内の混雑を軽減するために、警察からの要望で町外から町内に流入する方向の青時間を少なくする工夫を行っている。
- ・主要交差点に職員が張り付き、渋滞状況の情報を事務所とやりとりした。

(4)利用者への情報提供状況

- ・苦情は少なかったが、通行止めの問い合わせが多かった。24 時間体制で道の相談室を開設しており、通行止めの情報は沿道の看板、インターネット、携帯サイト、各地への投げ込みを通じて提供した。サイトの更新作業は事務所が実施した。